

三重大学大学院 教育学研究科 案内 2015



三重大学大学院教育学研究科で、教育研究を深めませんか。

今日の社会において、教員養成の高度化は重要な課題となっています。学校教員には、従来にも増して専門的な知識や力量が必要とされていますし、国際化や情報化に対処しうる高い指導力も求められています。

このような現状に対応するべく、本教育学研究科は新組織に改組されて3年目を迎えました。従来の教科を中心とする3専攻12専修から、1専攻5教育領域（学校教育領域、特別支援教育領域、人文・社会系教育領域、理数・生活系教育領域、芸術・スポーツ系教育領域）へと統合され、それにあわせてカリキュラムも改正されました。

これによって、院生はこれまでの教科にもとづく個別領域の研究をふまえつつ、周辺教科の最先端の研究にふれることができるようになり、教育の現代的課題を解決する能力を養う機会が増えました。

専門の異なる多様な学修の機会をもつことは、広い視点と深い考察力を身につけるためのもので、それは学校現場等での指導的な役割を果たす人材にとって不可欠のものです。教育領域共通科目の設置による教科の枠組みを超えた指導体制は、受講者にも好評ですし、専攻教科を超えた院生相互の交流も深まっています。

教育学研究科においては、専修免許を取得することができます。また働きながら学びやすくするための、3年から4年間かけて履修し、学位や免許状を取得できる長期履修制度も設けられております。

修了後は、教職や教育関係の職種に就いて活躍する人は多く、他大学の大学院博士課程に進学するなど教育研究に携わる人もいます。また県内各地の教育現場から派遣された現職の学校教員については、高度専門職業人として指導的な役割を果たしています。

子どもの「確かな学力の向上」、「健やかな身体の育成」、「豊かな社会性の涵養」など、大学卒業後も専門的な教育研究を進めたい方、学校現場での教職経験を活かし、さらに専門的な深く広い視点からの教育研究を進めたいと願っている学校教員の皆様のご入学を、心からお待ちしています。



教育学研究科長
藤田 達生

理念・目的

教育学研究科は、人間の発達および教育に関する高度な専門的研究を進めると共に、教育現場における諸課題の解決にリーダーシップを発揮できる人間性豊かな教員の養成のための高度な教育・研究を行うことを目的とします。

教育学研究科アドミッションポリシー

- 教育に強い関心を持ち、その専門的研究を進めていくための意欲と素養を有している。
- 将来、教育の分野において専門の職業人を目指している。
- 現場での経験を有する者については、現場での経験を基に、専門的な研究を進める意欲がある。

履修方法及び学位

教育課程編成の要点

授業科目は、①学校教育及び特別支援教育に関する科目、②教科教育に関する科目、③教科に関する専門科目、④教育特別研究、⑤課題研究の5部門によって構成されている。

- (1) 学生の履修にさいしては、これら5つの部門が互いに遊離することなく、総合的な機能を発揮できるよう配慮した。すなわち、教員による個人指導の側面を強めることによって学生の資質と個性に応じた授業履修を可能にした。
- (2) 教育特別研究の履修を必修にし、教育に関する理論と実践の総合を図るとともに、教科をこえた学際的な研究に従事させることを企図した。
- (3) 課題研究は、学生の修士論文に直結する課題についての高度な授業であり、マンツーマン的方法を通して教育・研究の効果を増大させることを図る。

履修方法

(1) 履修基準(最低単位数)

①研究科共通科目

教育科学特別研究(2単位)は必須科目となる。

②教育領域必須科目

各教育領域内で開講される特別研究(4単位)を必修とする。

※学校教育領域においては、教育科学特別研究演習(2単位)又は学校教育特別研究Ⅱ(2単位)のいずれかを選択必須。

③教育科学専攻内の専門科目

各領域内で開講されている専門科目の授業科目の中から選択し、14単位を選択必須とする。

④教育科学専攻内の専門科目

学校教育領域、特別支援教育領域に所属する学生は、自分の所属領域以外の領域の中から4単位を選択必須とする。人文・社会系教育領域、理数・生活系教育領域、芸術・スポーツ系教育領域に所属する学生は、学校教育領域、特別支援教育領域の授業を4単位選択必須とする。

⑤課題研究

課題研究の4単位については、全て必修とする。

⑥自由選択科目

自由選択科目の2単位については教育学研究科で開講しているすべての授業科目の中から2単位を選択必須とする。

(2) 修業年限等

標準修業年限は2年間とする。ただし、長期履修制度により修学する学生は3年間ないしは4年間の修業年限とする。

(3) 修士論文及び学位

本研究科に2年以上在学して、専攻、各領域・分野で定めた授業科目を含め合計30単位以上を修得し、修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格したのものには修士(教育学)の学位が授与される。

教育領域の教育及び研究の概要

学校教育領域

学校教育領域では、研究テーマとして現代社会における教育の問題を取り上げ、多面的で高度な視点からの分析を試みる。また、他の教育領域の学生にも

今日の学校教育の意義を認識し理解を深めてもらうべく、授業を開放する。主に教育学の分野、教育心理学の分野、幼児教育の分野から成る。

特別支援教育領域

特別支援教育領域は、昨今の学校教育現場における様々な支援を必要とする子どもたちの問題を理解し、教育実践力をつけるための授業展開をする。開講

科目は、主に特別支援教育の分野、障害児心理学、障害児医学の分野から成る。

人文・社会系教育領域

比較文化・社会認識・コミュニケーション・国際理解というキーワードが、人文・社会系教育領域において、国内外の社会・文化に精通した能力を備えた人材育成を行っていくために最も重要である。これらをキーワードとすることにより、各分野間でアプローチの仕方の違いを学生に理解しやすいようにしている。

現在、我が国を取り巻く国際問題・経済問題などに、生活様式・民族性による考え方の違いに端を発して

混迷しているものが少なくない。このことはとりもなおさず、従来の高等教育機関での講義・研究システムが学生の所属する個別専門分野のみからの視点でしか捉えられず、より学際的に追究する目を鍛えてこなかったことに一因を求めることができる。

この点を念頭に置き、キーワードに沿った形で3つの分野が協働して教育課程をつくり、より広い視野で考え活躍できる教員の育成をめざしている。

理数・生活系教育領域

科学教育では、以前からSTS (Science-Technology-Society) 教育の重要性が指摘されてきた。STS教育は、科学・技術・社会の相互関連について適切に理解させ、社会的問題について、思慮深い意思決定に基づいた行動ができる市民の育成をめざしている。学校教育においては、「社会」は、子どもにとって最も身近な社会である「生活」と読み替えられ、教育実践が図られる。具体的には、理科教育における理科と生活との関連性の重視、あるいは、義務教育の最終段階といえる中学校理科の最終単元が「科学技術と人間生活」(すなわち、STS)である等、学習指導要領においてもSTSの考え方が随所に反映されている。

科学を担当する「理科」、技術を担当する「技術」、生活を担当する「家庭(家政)」に、これらの基礎をなす

「数学」を加えて、この4教科でグループを組むことは、科学教育にとって不可欠なSTS教育の考えにおいて必然であるといえ、上記のような教員養成に資するものであると考える。

上記のように、「理数・生活」は、科学・技術・生活の関連性の重視が特徴といえる。そのため、教育課程においても、「自然科学と技術」で科学と技術の関連性を、「科学・技術と生活(環境)」で科学・技術・生活あるいは広く環境との関連性を理解させる。それらの理解の上に立ち、学校教育においてSTSをどう扱うか、どう伝えるか、見識を深める。このように、深い見識に裏打ちされた、実践力のある教員育成をねらいとして、教育課程を構築している。

芸術・スポーツ系教育領域

芸術(音楽・美術)及びスポーツは、個人の身体や感覚に関わる表現活動という共通項を有する。人の健全な心身を保つために必要とされ、健やかな人間関係や社会の構築にも繋がるという共通する目的を、それぞれの領域がともに担っている。本研究科では、芸術・スポーツ系教育領域として一体化することによって総合的に捉え直すことができ、その結果として、芸術とスポーツという表現活動に関する人間的

な資質と能力の伸張を促す教育に関する理論的・実践的な専門研究を一体として実施することができるようにしている。

従来から大学院には専攻分野における高い研究能力や高度の専門性が求められているが、一層広い視野に立った学識を養うために、芸術・スポーツ教育領域として一元化し、多様な学修を可能としている。

研究領域

専攻	教育領域	分野	専攻	教育領域	分野	専攻	教育領域	分野	
教育科学	学校教育領域	学校教育	教育科学	理数・生活系教育領域	数学科教育	教育科学	芸術・スポーツ系教育領域	音楽科教育	
	特別支援教育領域	特別支援教育			代数学			器楽	
	人文・社会系教育領域	国語教育学			国語学			幾何学	声乐
		国文学			国文学			解析学	作曲・指揮法
		社会科教育			社会科教育			応用数学	美術科教育
		歴史・思想学			歴史・思想学			理科教育	美術
		地域科学			地域科学			物理学	保健体育科教育
		英語科教育			英語科教育			化学	体育・スポーツ学
		英語学			英語学			生物学	運動学
		英米文学			英米文学			地学	学校保健
		技術科教育							
		技術学							
		家庭科教育							
		家政学							

担当教員一覽

学校教育領域

氏名	職名	教育・研究分野
大日方真史	准教授	教育方法学・生活指導論
蓮尾直美	教授	教育社会学
佐藤年明	教授	教育方法学・教育課程論
森脇健夫	教授	教育方法学・授業論
伊藤敏子	教授	教育哲学
織田泰幸	准教授	学校経営学
下村勉	教授	教育工学・情報教育
須曾野仁志	教授	教育実践・学習支援
松浦均	教授	社会心理学・教育心理学
南学	教授	教育心理学・発達心理学
中西良文	准教授	学習心理学
瀬戸美奈子	准教授	発達臨床心理学
富田昌平	准教授	乳幼児発達心理学
須永進	教授	幼児教育学

特別支援教育領域

氏名	職名	教育・研究分野
荒川哲郎	教授	聴覚・言語障害教育
大谷正人	教授	精神医学・障害児病理
菊池紀彦	准教授	障害児心理
郷右近歩	准教授	発達神経心理学
栗田季佳	講師	特別支援教育学, 教育・社会心理学

人文・社会系教育領域

氏名	職名	教育・研究分野
守田庸一	准教授	国語教育
丹保健一	教授	国語学
余健	教授	国語学
松本昭彦	教授	国文学
林朝子	准教授	書道
山根栄次	教授	社会科教育
永田成文	教授	社会科教育
藤田達生	教授	歴史学(日本史)
大坪慶之	准教授	歴史学(東洋史)
宮崎清	教授	人文地理学
宮岡邦任	教授	自然地理学
手塚和男	教授	法律学
内田秀昭	准教授	経済学
馬原潤二	准教授	政治学
秋元ひろと	教授	哲学・倫理学
早瀬光秋	教授	英語科教育
荒尾浩子	准教授	英語科教育
西村秀夫	教授	英語学
宮地信弘	教授	英米文学

兼任教員

氏名	職名	教育・研究分野
尾西康充	教授	国文学
山田雄司	教授	歴史学(日本史)
遠山敦	教授	倫理学
杉崎鉦司	教授	英語学

理数・生活系教育領域

氏名	職名	教育・研究分野
中西 正治	教授	数学科教育
田中 伸明	准教授	数学科教育
露峰 茂明	教授	代数学
古関 春隆	教授	代数学
新田 貴士	教授	代数学
森山 貴之	准教授	幾何学
玉城 政和	教授	解析学
肥田野久二男	教授	解析学
川向 洋之	教授	解析学
萩原 克幸	准教授	応用数学
荻原 彰	教授	理科教育
平賀 伸夫	教授	理科教育
牧原 義一	教授	物理学(物性物理学)
國仲 寛人	准教授	物理学(統計物理学)
新居 淳二	教授	化学(固体化学)
後藤太一郎	教授	生物学(動物学)
平山 大輔	准教授	生物学(植物学)
伊藤 信成	教授	地学(天文学)
栗原 行人	准教授	地学(古生物学)
魚住 明生	教授	技術科教育
松岡 守	教授	技術学(電気)
松本 金矢	教授	技術学(機械)
奥村 晴彦	教授	技術学(情報)
山守 一徳	教授	技術学(情報)
中西 康雅	准教授	技術学(材料加工)
吉本 敏子	教授	家庭科教育
林 未和子	准教授	家庭科教育
磯部 由香	教授	食物学
平島 円	准教授	食物学
増田 智恵	教授	被服学
乗本 秀樹	教授	家庭管理学

兼任教員

氏名	職名	教育・研究分野
三宅 秀人	准教授	電子工学
寺西 克倫	教授	化学(有機化学)

芸術・スポーツ系教育領域

氏名	職名	教育・研究分野
根津知佳子	教授	音楽科教育
川村 有美	准教授	音楽科教育
兼重 直文	教授	器楽(ピアノ)
小畑真梨子	講師	器楽(ピアノ)
弓場 徹	教授	声楽
森川孝太郎	准教授	作曲
山田 康彦	教授	美術科教育
上山 浩	教授	美術科教育
関 俊一	准教授	美術(絵画)
奥田 真澄	准教授	美術(彫刻)
岡田 博明	教授	美術(デザイン)
山口 泰弘	教授	美術(芸術学)
山本 俊彦	教授	保健体育科教育
岡野 昇	教授	保健体育科教育
加納 岳拓	講師	保健体育科教育
鶴原 清志	教授	体育・スポーツ学
八木 規夫	教授	運動学
後藤 洋子	教授	運動学
杉田 正明	教授	運動学
冨樫 健二	教授	学校保健
重松 良祐	准教授	学校保健

現職教員の方へ

三重大学大学院教育学研究科は、教職未経験の学生に対する教育を重視しているだけでなく、現職教員の資質向上、研究・実践能力の一層の錬磨にも大きな重点をおいています。そのために下記のような特別措置を講じています。

① 派遣教員

派遣教員は、1年次には大学院で研究に専念します。2年次には勤務校に戻って教育実践を重ねながら、毎週定期的に通学して必要な単位を修得するとともに、修士論文作成のための研究指導を受けます。

② 学力検査

派遣教員、教職等経験者の学力検査の内容は、一般の出願者とは一部異なります。詳細については募集要項でご確認ください。

※派遣教員とは、県教育委員会又は国等による派遣制度による現職教員を示し、教職等経験者とは、入学年度の4月1日時点で教育関係諸機関に在職していた経験が3年以上ある者を示します。

長期履修制度について

長期履修制度とは、職業を有する等の個人の事情に応じて、柔軟に標準修業年限（2年）を超えて履修し、学位等を取
得できるようにする制度で、修業年限は最大で4年間となります。ただし、「職業を有する等の事情による長期履修」
は原則として社会人を対象とし、経済的理由等は認められません。

また、授業料は2年間（標準修業年限）に支払うべき授業料総額を、あらかじめ認められた修業年限で除した額をそ
れぞれの年（学期）に支払うこととなります。

【授業料（予定額）の納入例】 * 授業料総額 1,071,600 円(予定額)

■ **標準修業年限(2年)** 1,071,600 円 ÷ 2 年 = 535,800 円

1 年目 (535,800 円) 2 年目 (535,800 円)

■ **長期履修による,3年間の履修学生** 1,071,600 円 ÷ 3 年 = 357,200 円

1 年目 (357,200 円) 2 年目 (357,200 円) 3 年目 (357,200 円)

■ **長期履修による,4年間の履修学生** 1,071,600 円 ÷ 4 年 = 267,900 円

1 年目 (267,900 円) 2 年目 (267,900 円) 3 年目 (267,900 円) 4 年目 (267,900 円)

また、本研究科では教育職員免許状取得のために長期履修制度を利用することができます。

教育に強い関心を持つ学生に対し、学部授業（教育実習・介護等体験を含む）の受講を認め、希望する教育職員免許状（原
則として1種類）を取得させることを目的としています。（受け入れ人数は10名程度とします。）

なお、長期履修制度を希望する者に対しては出願に先立ち出願可否審査を行います。このことについての相談・問い
合せは三重大学教育学部学務担当まで連絡ください。

大学院説明会のご案内

大学院説明会では、各教育領域の特徴や入学者選抜の方法、実際の研究生活などについて説明するほか、各教育領域
の担当教員が直接皆さんの質問にお答えいたします。事前の申し込みは不要です。お気軽に参加ください。

日 時

第1回 平成26年 5月24日(土)…………… 14:00~16:00

第2回 平成26年11月15日(土)…………… 14:00~16:00

*受付は13:30から始めます。参加費は無料です。

会 場

三重大学教育学部
専門校舎1号館4階 大会議室

プログラム

- ・全体会 …………… 14:00~15:00
- ・教育学研究科の概要
- ・平成27年度入学者選抜について
- ・修学方法について
- ・長期履修について
- ・修学方法について教育領域別面談…………… 15:00~16:00
- ・教育領域の概要
- ・教員の研究分野紹介

アクセス

電 車：近鉄急行

名古屋—江戸橋 約 60 分

近鉄特急

名古屋—津 約 50 分

難波—津 約 90 分

京 都—津 約 110 分

(津で急行または普通に乗り換え)

津—江戸橋 約 2 分

JR 快速みえ

名古屋—津 約 50 分

車：津駅前バスのりば「4番」から三交バス「白塚駅前」

「棕本」「豊里ネオポリス」「三重病院」「太陽の街」

行きで「大学前」下車。

津駅からタクシーで約 10 分

徒 歩：近鉄江戸橋駅から徒歩で 15 分

飛行機：中部国際空港（セントレア）—津なぎさまち

高速船 40 分

なぎさまちよりタクシーで約 15 分 または三交バス

「津駅」行きで「津駅」乗り換え「大学前」下車。



問い合わせ先

□大学院全般のお問い合わせ

三重大学教育学部 学務担当

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

Tel : 059-231-9319 【電話によるお問い合わせは平日 (8:30-17:15) のみ】

Fax : 059-231-9352

E-mail : edu-gakumu@ab.mie-u.ac.jp (Fax・メールは常時受け付けています)

URL : <http://www.edu.mie-u.ac.jp/>

□各教育領域についての問い合わせは、以下の教育領域代表者に直接お願いします。

教育領域	教育領域代表者	メールアドレス	電話番号
学校教育領域	須永 進	sssunaga@edu.mie-u.ac.jp	059-231-9338
特別支援教育領域	大谷 正人	m-otani@edu.mie-u.ac.jp	059-231-9334
人文・社会系 教育領域	余 健	yeoken@edu.mie-u.ac.jp	059-231-9208
	永田 成文	snagata@edu.mie-u.ac.jp	059-231-9225
	宮地 信弘	miyachi@edu.mie-u.ac.jp	059-231-9315
理数・生活系 教育領域	玉城 政和	tama@edu.mie-u.ac.jp	059-231-9230
	牧原 義一	makihara@edu.mie-u.ac.jp	059-231-9243
	松本 金矢	matumoto@edu.mie-u.ac.jp	059-231-9309
	乗本 秀樹	norimoto@edu.mie-u.ac.jp	059-231-9302
芸術・スポーツ系 教育領域	根津知佳子	c-nezu@edu.mie-u.ac.jp	059-231-9268
	山口 泰弘	pah02426@edu.mie-u.ac.jp	059-231-9276
	杉田 正明	sugita@edu.mie-u.ac.jp	059-231-9293